



## SGRAふくしまスタディツアー参加者募集

渥美国際交流財団/SGRAでは2012年から毎年、福島第一原発事故の被災地である福島県飯舘（いいたて）村でのスタディツアーを行ってきました。そのスタディツアーでの体験や考察をもとにしてSGRAワークショップ、SGRAフォーラム、SGRAカフェ、そしてバリ島で開催された「アジア未来会議」でのExhibition & Talk Session “Fukushima and its aftermath-Lesson from Man-made Disaster”などを開催してきました。今年も10月に第3回目の「SGRAふくしまスタディツアー」を行います。お友達を誘って、ご参加ください。

### 《飯舘村、あれから3年-litate aftermath》

日程：2014年10月17日（金）、18日（土）、19日（日）2泊3日

参加メンバー：渥美財団奨学生、SGRA/ラクーンメンバー、その他

人数：10～15人程度

宿泊：「ふくしま再生の会-霊山（りょうぜん）センター」

参加費：15,000円（ラクーンメンバーには補助金が出ます）

申込み締切：9月30日（火）

問合せ：渥美国際交流財団 角田 [tsunodaaisf@gmail.com](mailto:tsunodaaisf@gmail.com) Tel:03-3943-7612

### 《プログラム》（予定）

#### 1. 第1日目：17日（金）

朝：東京⇒福島（飯舘村）貸切バス（参加者が少人数の場合には高速バス利用）

午後：飯舘村内の視察・見学

夜：「ふくしま再生の会」メンバーとの語らい

田尾陽一（「ふくしま再生の会」理事長）：「飯舘村の再生と“ふくしま再生の会”の活動」

菅野宗夫（「ふくしま再生の会」地元代表）：「地域住民として、今語りたいこと」

寺島英弥（新聞記者/河北新報編集委員）：「帰還と風評被害：原発事故被災地の苦悩」

#### 2. 第2日目：18日（土）

朝：避難住民との語らい

避難所生活を送るお年寄りたちとの語らい：「いつ、自分の家に帰れるのか・・・」

午後：「ふくしま再生の会」での協働作業

「ふくしま再生の会」のメンバー、地元農民と共に「そばの刈入れ」の協働作業

夜：若者との語らい

若い世代との語らい：「帰還するのか？ 帰還できるのか？」

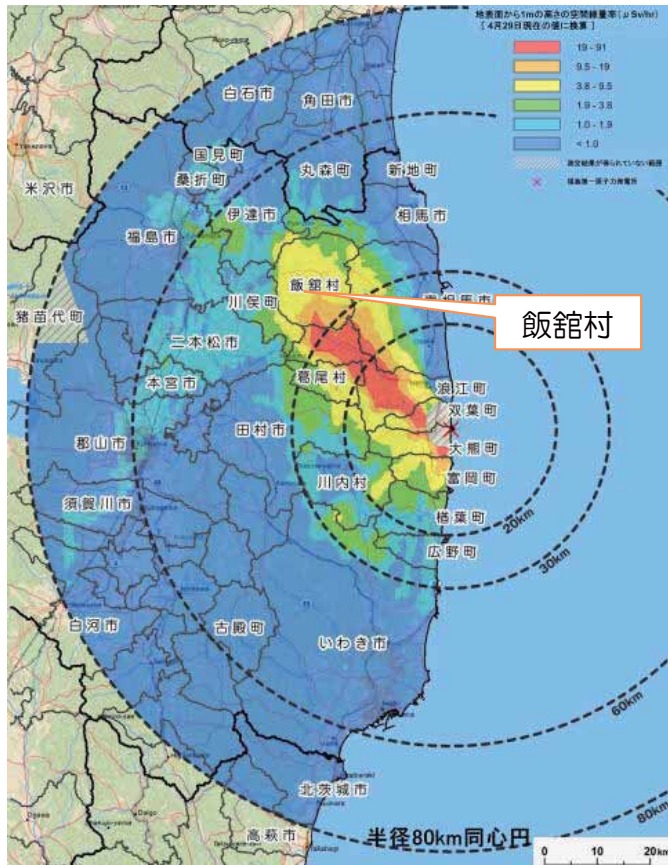
#### 3. 第3日目：19日（日）

午前：未定（参加者の意見で決める）

午後：貸切バスもしくは新幹線で東京へ

#### ツアーの安全性について：

1. 飯舘村の放射線量は低減し、除染作業も進められています。
2. 飯舘村内では昼間の活動は認められており、多くの住民や車が行き交っています。
3. ツアーには放射能問題の専門家が同行し、放射線量が高いと思われる場所での活動は行いません。
4. 一人一人が放射線測定器を持ち、自分で計測し、安全を確認しながら行動します。
5. 夜は、飯舘村外の宿泊施設に泊まります。



文部科学省及び米国DOEによる航空機モニタリングの結果

### 《飯舘 (Iitate) 村とは》

東京から北に約300Km

福島第一原発から北西に約30~40Km

人口：6,100人

面積：230Km<sup>2</sup> (東京の山手線内の3.5倍)

主な産業：酪農、農業、林業など

飯舘村は75%が森林に囲まれ「日本の美しい村100選」にも選ばれた村でした。

### 《飯舘村の放射能被害》

- ❑ 東日本大震災による福島第一原発事故が発生したのは2011年3月11日。この時点では飯舘村には深刻な被害はありませんでした。
- ❑ しかし、3月14日福島第一原発が水蒸気爆発をおこし大気中に放射能汚染物質 (radioactive pollutant) がまき散らされました。放射能汚染物質が風に乗って飯舘村の上空に来た時、雨や雪が降り、雨や雪に付着した放射能汚染物質が飯舘村に降り注いだのです。
- ❑ そして5月から全村避難 (evacuation) が始まり、いまだに全村民が避難生活を余儀なくされています。

### 《飯舘村の現状と問題》

- ❑ 飯舘村の全村民は、現在でも近隣の町村あるいは日本各地で避難生活をしています。しかし、村内で生活すること (夜、寝泊りをすること) は禁止されていますが、昼間に村内に入ることは許されています。
- ❑ 現在は、放射線量も徐々に下がりはじめています。また膨大な資金を投入し家屋や農地の除染 (decontamination) 事業が行われています。
- ❑ 2~3年後には、住民が帰還できるのではないかとされていますが、明確ではありません。
- ❑ 大きな問題としては、避難命令が解除されて住民が帰還したとしても、以前と同様の酪農や農業、林業を再興することはできません。
- ❑ 住民たちは「自分のふるさとに帰りたい」、「ふるさとで昔ながらの生活をしたい」という想いを持つ一方で、帰ったとしても「生活ができない」という問題に直面しています。

### 《ふくしま再生の会》

- ❑ 今回のスタディツアーの受入団体である「ふくしま再生の会」は、飯舘村の農民、都市からのボランティア、大学等の研究者/学識者 (主に筑波大・東大) の3グループのコラボレーションを原則として活動するNPO団体です。
- ❑ 2011年秋から、飯舘村の再生プロジェクトとして、住民による効率的な除染方法の研究開発や飯舘村に伝わる「マテイ (真手)」の考え方をもとにした、サステイナブル/エコロジカルな地域産業とコミュニティの再生に取り組んでいます。